

平成19年10月22日  
株式会社新生銀行  
(コード番号: 8303)

## 資産運用に関する新しい広告キャンペーンの開始について

～「5分で読める資産運用・読本」を軸に展開～

当行は、平成19年10月22日(月)より、退職されたお客さまや退職後のセカンドライフに向けて貯蓄を行っているお客さまなどを対象に、「新生銀行に5分ください。」をキーメッセージとして、豊かなセカンドライフのための資産運用の必要性を訴求する新しい広告キャンペーンを展開します。

当行では、10月23日(火)に開始する新聞広告をはじめ、雑誌やテレビ、インターネット、ラジオなどの媒体を活用して、本キャンペーンを訴求することにより、個人のお客さまにとって「資産運用に最適な銀行」を目指す銀行としての認知度向上を図ります。

「新生銀行に5分ください。」は、お客さまに、『5分で読める資産運用・読本』をお読みいただくことを呼びかけるメッセージです。この読本では、退職金を全く運用せずに取り崩していった場合や、一定の利回りで運用できた場合のシミュレーションを例示し<sup>\*1</sup>、資産運用の重要性を訴えます。その上で、高齢化社会および将来的なインフレや増税の可能性をも踏まえたセカンドライフへの対策の一例として、「長期国際分散投資」を提案しています。この読本の作成にあたり当行が行ったインターネット調査において、この読本を読んだ方の86.7%の方が資産運用の必要性を感じたという結果がでております。<sup>\*2</sup>

「5分で読める資産運用・読本」は、店頭などで配布されるほか、コールセンター(新生パワーコール)を通じてご請求いただくことができます。また、当行のウェブサイト(<http://www.shinseibank.com>)上でも閲覧いただくことができます。

当行では、今後、「長期国際分散投資」を可能にする金融商品の拡充をすすめ、セカンドライフの資産運用をサポートするベスト・マネー・アドバイザーを目指してまいります。

- \*1 例えば、2,500万円の退職金を全く運用せず、取り崩していくと、14年2ヵ月で底をつく可能性があります。(ゆとりある老後生活に必要な金額(月額37万9,000円/出典:生命保険文化センター「平成16年度 生活保障に関する調査」)から、標準的な年金額(月額23万2,592円/出典:厚生労働省「平成19年度の年金額について」)を引いた差額となる14万6,408円の支出が毎月あった場合、2,500万円を取り崩すまでの期間を算出。)
- \*2 平成19年10月に行った、30歳から69歳の合計2,000人を対象としたインターネット調査結果。  
「5分で読める資産運用・読本」をお読みになって、資産運用の「必要性を感じた」および「少し必要性を感じた」と答えた調査対象者が86.7%、また、この読本をお読みになって、「行動を起こそうと思った」および「少し行動を起こそうと思った」と答えた調査対象者が67.2%となっています。

以上

別添資料をご覧ください。

